

市史しぼれ話

112

匝瑳地区

匝瑳地区は、一九五四年（昭和二十九年）の八日市場市誕生前は匝瑳村で、その成立は一八八九年（明治二十二年）四月です。松山、中台、大浦、長岡、山桑、宮本、生尾の七か村合併により成立しました。それ以前宮本村は八日市場村外四か村

（籠部田、富谷、下富谷）に属していました。

郡名として使われていた匝瑳が新村名となったのは、生尾村の老尾（おいお）神社が古くは「匝瑳大明神」とよばれ、郡内で知られた存在だったことによるとされています。

松山神社に隣接する匝瑳小学校が現在地に建設されたのは、

一九一〇年（明治四十二年）でした。新村誕生から二十年近く要したのは、学校敷地がなかなか決まらなかったためです。

老尾神社のまつられた生尾から長岡、大浦まで台地が続き、その突端を「オウラ」と呼んだのでしよう。

広域農道に沿った借当川の上流は境川と呼ばれ、この川を境界として大浦側を匝瑳南条、飯高方面を匝瑳北条と呼んでいます。大浦周辺には「チマタ」という地名があり、九三

〇年代の匝瑳郡十八郷の「千俣（ちまた）」につながるものとして興味がひかれます。

大浦では大浦ごぼう、わが国最古の即身仏（そくしんぶつ・ミイラ）弘智法印（こうちほういん）ゆかりの蓮華寺、長岡には中世城跡と近世の新田集落、山桑の医光院と曾我兄弟伝説などがあります。松山には市域でただ一つ、江戸時代に幕府から神領（しんりょう）神社の耕作地（）を受けていた松山神社と明治初年の松山戦争、中台にその主戦場となった龍性院周辺と脱走塚、宮本の熊野神社は平安時代この地域が紀州（現在の和歌山県）熊野神社の荘園（しょうえん）であったころの中心神社、それにつながる県指定文化財の一三五三年（文和二年）に造られた釣り鐘、生尾には、延喜式内社（えんぎしきないしゃ）・九三〇年代の全国神社一覧に載る神社）である老尾神社と、この地区は、飯高地区とともに歴史の宝庫ともいえます。

来年一月の野栄町との合併による新市名が「匝瑳市」。歴史の上では奈良時代以降、一一六〇年ぶりに注目される地名です。その由来はいくつかの説がありますが、現存する記録では七四一年（天平十三年）のものが最古とされています。

（生涯学習課）



匝瑳地区の中央に位置する匝瑳小学校と松山神社